

# 郷土研通信



フキノトウ  
(アイヌ語名：マカヨ)

発行：てしかが郷土研究会 北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10  
発行者：松橋 秀和

## 第8回月例会

二〇二四年三月二〇日に第八回例会が開催された。二日前の強風が残るなか、天候が危ふまれたが、風は小康状態で、ホツとしました。

出席者は、小林俊夫、斎藤敬子、平塚一明、高野翔吾、荻野峻宏、山本広、松橋秀和、山本正裕（敬称省略）

### 会員の動き

○高野さん、カナダ、北米へロングタイム・トレイル



高野さん（中央）と暫しの別れを惜しむ

勉強会終了後、高野翔吾さんから「四月から、一年間ほどワーキングホリデーを利用してカナダ、北米へ行つてきます」と挨拶があった。会員の皆さんとは、身体にはくれぐれもなど、しばしの別れの言葉を交わしていました。

リフォームを自ら手掛けていた家はそのままだるので、きつと良い経験をし、何かをつかまえて弟子屈に帰って来られることでしょう。

○『阿寒国立公園の三恩人プラス』出版される

前回の例会で松橋さんから紹介のあった『阿寒国立公園の三恩人プラス』が完成した、との報告がありました。本は町内、釧路市内の書店や金道のコーチャンフォーでも販売するとのこと。松橋さんは「今年、阿寒周国立公園が指定されて九〇周年を迎える。百

周年に向けて国立公園の原点を考慮するための最良の書」であると話された。



## 勉強会

### 演題

「松浦武四郎さんの屈斜路コタン滞在記」

現代の武四郎さんとい

ソリツカラの心友物語を添えて」



松浦武四郎さんの屈斜路コタン滞在記  
～現代の武四郎さんとソリツカラの心友物語を添えて～

講師 斎藤敬子さん

冒頭、斎藤さんから「前回の勉強会に来られなかった方はご安心ください。ほとんど内容が進んでおりません」とあり、郷土研の勉強会は、講師の話に会員が追加情報や感想、質問が次々と繰り出し、なかなか進まないのが常となっております。

今回も武四郎さんの旅の整えなどで話しが盛りあがってしまいました。良いのか悪いのか解りませんが、勉強会ですから良しとしましょうか。

- 1) 現代の松浦武四郎さんって、どんな人？  
～おそらく性格もそっくり!?～
- 2) 「久摺日誌」だけでは、わからないこと  
～ソリツカラという人名はどこに?～
- 3) 「久摺日誌」から、わかること  
～3日間も滞在してくれたので～
- 4) 武四郎さんに教わったこと  
～テシカガという地名は「岩盤の上」で良いのか!?…などなど～
- 5) 後世へ伝えたいこと  
～屈斜路湖畔で刻まれてきたアイヌの生き様～

斎藤さんの演題レジュメ  
今回は(2)の途中まで

# 次回の月例会

次回の例会は、令和六年度の総会とします。提案する議題等は事前に送信（送付）します。内容をご確認され、活動計画に提案等を考えられていただければ、と思います。

日時

## 四月二十四日

一九：〇〇

場所

## 公民館・研修室

（会場が例会と変わります。くれぐれも「注意」ください）

総会終了後は勉強会を齋藤敬子さんの続きの講演とします。

演題

「松浦武四郎さんの屈斜路コタン滞在記」

現代の武四郎さんとイソリツカラの心友物語を添えて「レジュメ（2）」から引き続き。

# むかしむかし写真真館



昭和初期頃のポストカード

キャプションには「（北海道 弟子屈温泉）弟子屈より阿寒に通ずる殖民道路と廣袤十數里に亘る未墾原野」とあります。  
（※廣袤こうぼう。土地の広さ。廣は東西、袤は南北の土地の広がり）  
国道二四二号の現在の弟子屈消防署（旧弟子屈遊覧飛行場）附近から阿寒湖方面を視た写真でしょうか？  
奥春別には、明治三十二年



阿寒横断道路—国道241号

弟子屈消防署

に富山県から第一次移民として射水郡から二九戸が鋤別川沿いに土地が割り当てられ、開墾が始められました。  
この殖民道路も標茶にあった釧路集治監の囚人たちの手によって開削され、後にこの道路の先から永山在兼の指揮で阿寒横断道路が開削されました。